

あたら まち
新しい街づくり(2)
げすい どうせいびじぎょう
下水道整備事業

長年の夢

かつて江戸川区は、「雨が降れば水浸し、文化果つるところ」と揶揄されたこともありましたが。台風のたびに水害に悩まされ、都市化が進んでからも水路は家庭の雑排水ざっぱいすいで汚れ、快適な都市生活からほど遠い環境でした。区民にとって「雨が降っても長靴を履かなくてもいい街」が長年の夢でした。下水道の整備は、まさに夢実現への大きな転機でした。

江戸川区の下水道整備事業

昭和37年(1962)に「東京都市計画下水道」が全面的に改訂され、葛西系統が新たに加えられ、初めて江戸川区を含む荒川以東が下水道敷設区域とされました。同年5月小松川ポンプ場が稼働し、本区の下水道敷設の足がかりができました。同43年(1968)に平井・小松川地区は59haの地域が水洗可能地域甲地区として告示されました。



下水道の幹線工事

しかし、本区の下水道普及率はまだ2%でした。同39年(1964)に葛西処理場の都市計画が確定しましたが、実際の稼働(一部)は昭和56年(1981)からでした。

江戸川区は、少しでも下水道事業を早めようと昭和48年(1973)に、主要8路線・延長3.7kmの枝線工事を行い、同50年度(1975)末には、東・西小松川や船堀、葛西などの幹線約10kmと枝線約12kmを受託し完成させました。また、同51年(1976)からは、平井・小松川地区の未普及部分も施行しました。

江戸川区郷土資料室

このように積極的に事業の促進をはかり、下水道普及率は昭和60年(1985)に54%に、平成2年(1990)には91%に、そして同7年(1995)に100%(区画整理事業地区等を除く)を達成しました。

東京都の下水道事業 ～戦前・戦後～

東京都の下水道事業の原点は、明治16年(1883)4月30日付「水道溝梁等改良の儀」にあり、「神田下水」とよばれる分流式下水道が建設されました。大正2年(1913)12月に下水改良事業第一期工事として、浅草・神田地域が着工され、東京の近代的な下水道事業が開始されました。

大正12年(1923)には、関東大震災の復興事業として、帝都復興下水道改良工事を開始しました。その後、昭和5年(1930)に砂町処分場、翌6年に芝浦ポンプ場が完成し、同10年(1935)には砂町系統が改正され、本区の下水道敷設への希望が芽生えました。しかし、昭和19年(1944)、太平洋戦争の戦況悪化により、下水道事業は打切られました。

戦後は、昭和20年(1945)から「下水道復旧事業」が進められ、同23年(1948)「下水道拡張事業」、同25年(1950)に「東京特別都市計画下水道」(昭和30年に「東京都市計画下水道」と改称)を策定しました。

しかし、昭和40年代当初の23区の下水道普及率は35～40%にすぎませんでした。23区の都心区が100%になるのは昭和52年(1977)であり、23区全体での平均は65%、荒川以東ではまだ6%あまりでした。

安全・安心・快適なまち

下水道整備事業の完成によって、区民が安全で安心して暮らせるという長年の夢がかなうと同時に、幼児から熟年者が気軽に遊べ、散策できる親水公園が誕生するなど、快適な都市生活に新たな付加価値が加わることになりました。



一之江境川親水公園

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)